

旧巢鴨町編 花とみどりの里

[30分]



嘉永7(1854)年の江戸切絵図「染井王子巢鴨辺図」には「此辺染井村 植木屋多し」と書きこまれています。この映画の舞台である駒込及び巣鴨は、江戸において最大の規模をもつ花卉、植木の栽培地であり、かつ供給源でもあったのです。

なかでも染井(現在の駒込地域)では、当時江戸随一の植木屋といわれた代々伊藤伊兵衛を中心に、さまざまな花卉が栽培され、特につつじ、椿、さくら草などは江戸中の評判となっていました。

また、ここで生みだされたソメイヨシノ桜は、現在では全国的に植えられ、日本を代表する花の一つとして人々に愛されています。

一方、巣鴨は菊の栽培でその名をはせました。花壇造りによって有名になった「巣鴨の菊」は、やがて尾形舟や富士山を形どった形造りへと流行し、菊の季節は大変な賑わいであったようです。そしてこの形造りは、衰退、再興を経て、明治の東京名物とされた団子坂の菊人形へと引き継がれていきました。

こうして、駒込、巣鴨は、江戸～明治～大正と数々の植木屋たちによって、花とみどりの伝統を築きあげていったのです。しかし、関東大震災後の急激な都市化は、一転してこの地を変貌させてしまいました。

[昭和58,59年度製作]

～これまでに制作した記録映画～

題名	上映時間	制作年度
わたしたちの街豊島区	40分	昭55
みんなできずく豊島区 ～区政50周年記念事業～	15分	昭57
豊島の風土を訪ねてシリーズ 巣鴨編「花とみどりの里」	30分	昭59
長崎獅子舞	30分	昭59
長崎獅子舞・伝承の舞	57分	昭59

フィルムの貸出し

16ミリとビデオを用意しています。

◇申込み・中央図書館事業係

豊島区東池袋5-39-18 TEL (983)7861

なおこの映画は郷土資料館でもビデオでご覧になれます。

◇上映時間・30分

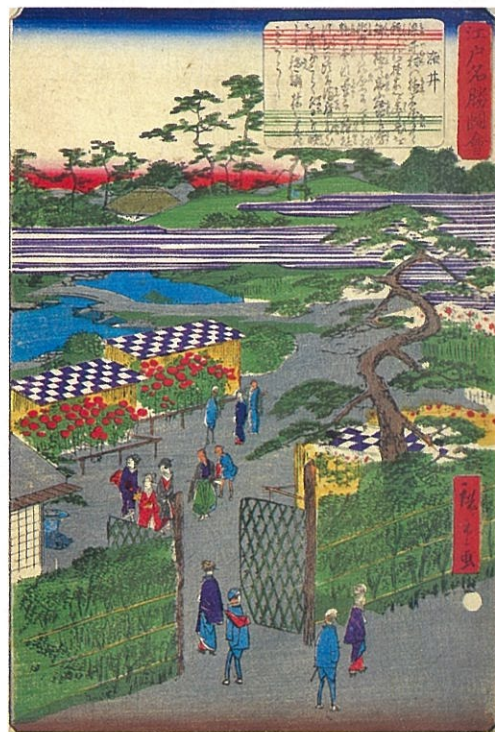
◇問合せ・豊島区企画部広報課

TEL (981)1111

映画「豊島の風土を訪ねて」シリーズ

花とみどりの里

～駒込・巣鴨～



(昭和59年度制作)

企画 東京都豊島区
制作 日本教育視材

制作にあたって

昭和55年度に制作した映画『わたしたちの街・豊島区』は豊島区をさまざまな角度からとらえたいわば総合編でした。そして今回から各論編として「豊島の風土を訪ねて」と題して4部構成（巣鴨編、高田編、西巣鴨編、長崎編）で区内各地域の特色ある風土にスポットをあて、文化やまちの変遷を紹介していきます。

豊島区は昭和7年10月に四つの町（巣鴨町、高田町、西巣鴨町、長崎町）があつまり誕生しました。その四つの町はそれぞれがユニークな発展過程をもち現在の街の顔を形づくっています。このシリーズを通じて、私たちがなにげなく行き通う街にある忘れてしまいがちな先人の足跡、息吹を訪ねながら、現在の郷土豊島を映像で語っていきたいと思います。そしてこの映画が少しでも郷土への理解を深める一助になることを念じつつ、ここに第1編として巣鴨編「花とみどりの里～駒込・巣鴨～」をおおくりします。



最後の植木植人といわれる伊藤栄次郎さん

★巣鴨編「花とみどりの里～駒込・巣鴨～」

嘉永7(1854)年の江戸切絵図「染井王子巣鴨辺絵図」には「此辺染井村 植木屋多し」と書きこまれている。この駒込(染井・伝中)及び巣鴨は江戸において最大の規模をもつ花卉、植木の栽培地であり供給源であった。

明暦3(1657)年藤堂家が染井に土地を賜った。そのお抱え地内には長池があり(宝暦4年幕府に菜園として上地)ここを水源とする谷戸川が西ヶ原～中里田端～谷中～根津谷中～不忍池とそそいでいた。この谷戸川の傾斜地と本郷台地は陽あたり良好であり植木に最良の沖積地であった。そして近在には加賀屋敷から六義園、藤堂下屋敷にいたる広大な庭園をもつ多くの大名屋敷や寺社があり、駒込は園芸の中心地たる地域条件がそろっていた。そしてもう1つは藤堂家の植木職人として当時江戸随一の植木屋といわれた代々伊藤伊兵衛の存在があった。とくに3代三之丞、4代政武は日本最初の総合的園芸書ともいべき数々の著作をのこした。

一方伊兵衛を中心とする染井の植木屋たちや伝中の植木屋たちに対して、巣鴨は菊の栽培で名をはせた。花壇造りにより有名になった「巣鴨のキク」はやがて屋形舟、富士山を形どった形造りへと流行し、絵番付、案内図が見物人にくばられ、菊の季節は大変な賑いだった。この形づくりはやがて菊人形になった。

さて、染井では植木の里としてさまざまな花卉の栽培がおこなわれ、なかでもつつじ、椿、さくら草などは江戸中に名をはせた。明治に入ると大庭園は破壊されていったが、庶民の草花への旨好はやまず盆栽、鉢植などを中心にその隆盛は続いた。著名な植木屋は多数の植物を栽培するとともに得意な花の種類ももっていて銘鑑を作成したりし大いに喧伝された。ここで生れたというソメイヨシノ桜は現在では全国的に植えられ、人々に愛されている。一方巣鴨でも花戸大闇といわれた内山長太郎、卯之吉を輩出し、明治の東京に紅葉をはやらせるなど尽力した。

こうして駒込、巣鴨は江戸、明治、大正と数々の植木屋、園芸家たちによって花とみどりの伝統を承え築きあげた。しかし関東大震災後の急速な都市化は一転、この地を変貌させていった。

江戸時代の日本の花卉、花木、庭木の改良発達は世界的に見てもユニークなものでした。当時の研究者には日本の浮世絵が西洋文化に及ぼした影響より園芸植物のあたえた影響のほうがはるかに大きいと評価してよいとまで言いきるほどです。そしてこのように優れた花の文化をつくりだした園芸植物のセンターは染井を中心にして巣鴨、駒込、団子坂と周辺地域に広がっていきました。しかし、現在ではその面影をしのぶ姿はありません。

この映画は江戸～明治～大正と各時代の波を反映しつつ生きつづけて、美しくしかも豊かなかつての染井巣鴨の姿を追い求めながら、この土地に築き上げられた祖先の営々とした努力の実態を浮きぼりにし、さらに現在の街がどのようにその伝統を生かさねばならないかを課題として問いかけていきます。

《構

成

《解

説